

看護学科

1年

科目名: 現代の子どもたち				担当教員 氏名: 堅田智香子・若瀬淳子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	総合科目	講義	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
①未来を担う子どものための法制度や「子どもの権利条約」について学習する。 ②子どもたちが生存し、発達し、保護され、尊重されていない世界の現状を述べる。 ③現代の子どものあるべき姿と課題について述べる。 ④子どもの権利を遵守する技術を獲得する。						成長・発達 子どもの権利条約 世界の子どもたち 保育・あそび
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 9	
A 知識・理解力	「子どもの権利条約」を理解する					
C 論理的思考力	グローバルに子どもたちの置かれている現状について考える					
D 問題解決力	身近な子どもの保育や教育等を理解し、情報を得て問題をアセスメントする					
G 倫理観	子どもの現状の課題と看護師としての自分の役割を考える					
H コミュニケーション力	自分の考えを他者に伝え、友達の意見を受け入れることができる					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	30 %	実技試験: %
						その他: 30 %
特記事項:その他30%は、取り組む姿勢や参加意欲を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 単元ごとに指示する。オムニバス形式であるため単元ごとの終了時に習得状況をレポートにて確認する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 発表やディスカッションの中で、調べ学習などの事前課題について、コメントを返していく。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【若瀬】ガイダンス「子どもの権利」先進国・発展途上国・日本との比較				【事後】参考図書からの子どもの権利についての復習		
②【若瀬】子どもたちにとっての「最善の利益とは何か」を考える				【事前】子どもの権利に関する記事調べ		
③【若瀬】子どもの権利(自分の成長過程を振り返る)				【事前】自分史年表記入		
④課外【堅田・若瀬】子どもの権利(活動・発達・遊び) 大島絵本館: 絵本「自分史」作りを学ぶ				【事前】【事後】幼少期の思い出の整理		
⑤【堅田・若瀬】子どもの権利(活動・発達・表現) 絵本「自分史」作り				【事前】【事後】自分史作りの材料集め		
⑥【堅田・若瀬】子どもの権利(活動・発達・表現) 絵本「自分史」作り				【事前】【事後】自分史作りの材料集め		
⑦【堅田・若瀬】子どもの権利(活動・発達・表現) 絵本「自分史」作り				【事前】【事後】自分史作りのまとめ		
⑧【堅田・若瀬】子どもの権利(表現) 自分史の発表と語り				【事前】語りの練習 【事後】学びのレポート		
⑨課外【堅田・若瀬】発達年齢に合わせた遊びの実際を見学(活動・発達) 遊びの発達を理解する 西部保育園				【事前】子どもの発達段階による特徴		
⑩【堅田・若瀬】子どもの権利(遊びと学習) 発達に合わせたおもちゃを考える グループ活動				【事前】発達に合わせたおもちゃ調べ		
⑪【堅田・若瀬】子どもの権利(遊びと学習) 発達に合わせたおもちゃ作り グループ活動				【事前】おもちゃの材料集め、プレゼン準備		
⑫【堅田・若瀬】子どもの権利(遊びと学習) 作成したおもちゃ遊びの学内での発表 グループ活動				【事前】プレゼン準備		
⑬課外【堅田・若瀬】豊かな創造性の育成(発達) 作成したおもちゃ遊びの実際 グループ活動 西部保育園				【事前】プレゼン練習		
⑭【堅田・若瀬】豊かな創造性の育成(発達) 作成したおもちゃ遊びの実際の振り返り グループ活動				【事後】学びのレポート		
⑮【若瀬】子どものアドボケート(権利の擁護者)としての役割				【事前】子どもの権利を守るための支援を考える		
使用テキスト: ・国民衛生の動向(厚生統計協会)				その他参考文献など: ・系統看護学講座 小児看護学概論 小児看護学①医学書院 ・世界子供白書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・子どもの最善の利益について、日本にとどまらず、世界を見る。 ・郊外学習での入館料等、一部自己負担を要する場合があります。						

看護学科

1 年

科目名：運動生理学				担当教員氏名：小野寺 孝一	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	総合科目	講義	選択	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
人体の仕組みについて科学的に理解し、幅広い知識を持って健康・体力づくりについて理解し、実践できるようにする。特に生活習慣病予防や介護予防の運動処方や実践方法について理解を深める					運動・健康・生理学
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 6. 7. 9	
A 知識・理解力		人体の仕組みについて生理学的に理解ができる。			
B 専門的技術		人体の仕組みについて生理学的に理解し、医学(看護)と運動を関連付けることができる。			
D 問題解決力		疾病や予防のために必要な健康・体力づくりについて生理学的に理解できる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 70 %	レポート： 30 %	発表： %	実技試験： %	その他： %	
特記事項：					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 9回目に中間評価、15回目に全体振り返りを実施します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 毎回ノートの確認時にコメントシートを渡す。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション・健康クイズ			【事後】いまの自分の知識を理解する		
②健康・体力づくりについて①(幼児～高齢者)			【事後】自身のこれまでの健康・体力づくりについて		
③健康・体力づくりについて②(幼児～高齢者)			【事後】健康・体力についてまとめる		
④体力の概念			【事後】体力に関するキーワードを書き出す		
⑤体力測定の実践(有酸素系体力測定の実施)			【事後】自分の体力について評価する		
⑥運動とスポーツの背景①～神経・筋肉・エネルギーについて～			【事後】運動と神経・筋肉・エネルギーを理解する		
⑦運動とスポーツの背景②～呼吸循環・酸素運搬～			【事後】運動と呼吸循環・酸素運搬を理解する		
⑧運動とスポーツの背景③～環境・栄養～			【事後】運動と環境・栄養を理解する		
⑨中間評価とまとめ			【事後】前半部分での疑問点を書き出す		
⑩生活習慣病と運動			【事後】生活習慣病に関する知識をまとめる		
⑪介護予防と運動			【事後】介護予防に関する知識をまとめる		
⑫運動指針と運動処方			【事後】運動指針と処方に関する知識をまとめる		
⑬ウェイトコントロール			【事後】ウェイトコントロールの方法をまとめる		
⑭効果のあるトレーニングについて			【事後】自分自身のトレーニング方法を定める		
⑮全体振り返りとノートの提出			【事後】看護現場で役立つ運動知識をまとめる		
使用テキスト： 随時プリント等で配布します。			その他参考文献など： ・健康・運動の科学(講談社) ・運動とスポーツの生理学(市村出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・演習として実技を行う場合もあります。運動服・うちばき等が必要になります。					